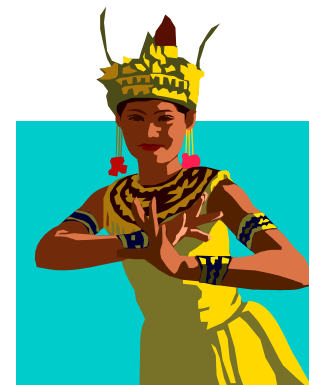
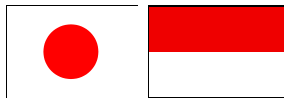


# インドネシアでの仕事と生活を **10倍**楽しむコツ





# 自己紹介

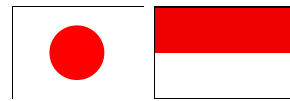


- 1975/4～1998/6 ヤマハ(株)入社 インドネシア工場立上支援部門配属
- 1998/6～1987/3 インドネシア工場生産課長 電子鍵盤楽器の組立生産
- 1987/3～1995/7 インドネシア工場長 電子楽器、ピアノ、ギターの輸出拠点化
- 1995/8～2005/3 帰国、インドネシアを普及品の生産拠点化するプロジェクト
- 2005/3～現在 ヤマハ退職、インドネシア進出サポートコンサルタントとして独立  
インドネシア語翻訳・通訳
- 静岡大学客員教授、専修大学客員講師
- 独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)専門家
- 独立行政法人 中小企業基盤整備機構アドバイザー
- 一般社団法人海外事業支援センター(OBAC)アドバイザー
- 一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)講師
- 一般社団法人日本インドネシアビジネス協会(ABJI)理事
- などを経歴し、これまでのインドネシア進出支援企業数は約100社

インドネシアとの関わりも48年になりました



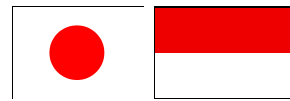
# セミナー要旨



- インドネシアは日本と親和性の高い国と言えますが、その反対に大きく異なる面も多くあります。
- そのため、日本や他の先進国では考えられない、貴重な経験を得る機会もたくさんあります。
- それらの経験は生活面だけではなく、仕事面においても見出すことが可能です。
- 特に若い時代に得られたこれらの経験は、その後の人生において、公私にわたり大きな影響を与えるものとなります。
- 本セミナーでは自身の若い頃の経験を基に、インドネシアでの仕事と生活を10倍楽しむためのコツを紹介します。



# 目次

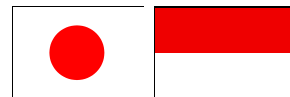


## 仕事編

1. 会社創設者としての経験
2. 会社経営者としての経験
3. 外国投資家としての立場
4. 部下を育てると言う経験
5. 営業マンとしての経験
6. 制約下での製品開発
7. 華僑、印僑との取引
8. 海外貿易実務の経験
9. 外国為替変動の実感
10. 日本的経営の長短の発見

## 生活編

1. 女中さんとのお付き合い
2. 運転手とのお付き合い
3. 個別キャディー付きゴルフ
4. 南太平洋での魚釣り
5. 歴史巡りのような国内旅行
6. 多彩な周辺国への海外旅行
7. 南国の山海の珍味との出会い
8. イスラム教との出会い
9. 植民地支配の歴史との出会い
10. 外から見える日本と言う国

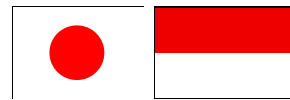


1. 会社創設者としての経験
2. 会社経営者としての経験
3. 外国投資家としての立場
4. 部下を育てると言う経験
5. 営業マンとしての経験
6. 制約下での製品開発
7. 華僑、印僑との取引
8. 海外貿易実務の経験
9. 外国為替変動の実感
10. 日本的経営の長短の発見

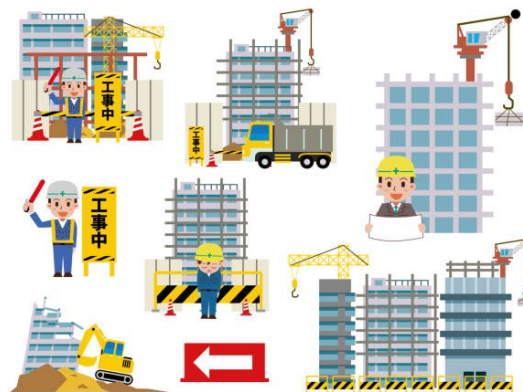
## 仕事編



# 1. 会社創設者としての経験

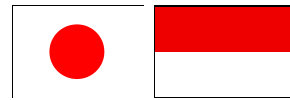


- 初代の現地法人責任者を任命された場合は、会社創設者としての滅多に無い、非常に貴重な経験を積む機会が与えられたと喜ぶべきでしょう。
- 特に製造会社の場合は用地の選定、工場建設、機械設備導入、従業員採用、材料調達先開拓などの立上業務を通じて、ゼロから創り上げる達成感を得られるはずです。
- また、その間の多くの課題解決を通じて、インドネシアにおける事業展開の根本的なノウハウを習得するはずです。
- そして立上当初から次第に拡張していく事業を眺めている時の満足感は、日本本社の組織の中では中々得られない喜びでもあります。





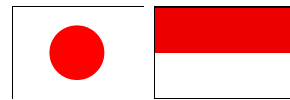
## 2. 会社経営者としての経験



- 初代の現地法人責任者を任命された場合は、会社経営者としての滅多に無い、非常に貴重な経験を積む機会が与えられたと喜ぶべきでしょう。
- 日本本社の組織の中では経営者の役割を任せられることは中々無いことですが、インドネシアでの場合は歴史のある本社と異なり、社内外のサポート機能が未整備のため、逆に自分の能力と創意工夫で経営体制を築き運営して行くこととなります。
- 自身で計画を立て、自身で実行し、自身で成果を得ると言う達成感を得られるはずです。
- そして、本社では一部門の仕事に精通していれば良かった業務の範疇は、調達、生産、販売に限らず、市場開拓、研究開発、そして経理、人事、法務、貿易、環境と全ての分野に広がることとなります。
- 泥縄式でも全く構わないので、必要に迫られて身に付けた知識と経験は、その後の人生に必ず役立ちます。



### 3. 外国投資家としての立場

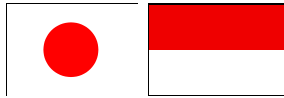


- 出資者である日本本社の代表としてインドネシア現地法人に滞在している日本人は、現地の政府や事業家から見れば日本での看板(ブランド)を背負っている外国投資家となります。
- 彼らは日本での肩書には関係なく、現地法人の幹部と見做して接して来ます。
- 現地企業のオーナーや取締役に限らず、大臣や総局長と言ったインドネシア政府の高官と会う機会もあるでしょう。
- これらは貴重な人脈造りの機会であり、インドネシアでの事業展開に必ず役立つ資産です。





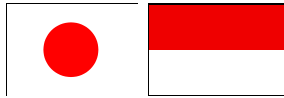
## 4. 部下を育てると言う経験



- 日本人駐在員の最大の使命は自分に代われるインドネシア人材を育てることであると確信しています。
- このことは『インドネシア共和国政令2021年第34号外国人労働者雇用』の第V章第28条において、以下の通り定められています。
  1. 外国人労働者の付添インドネシア人労働者の指名は技術移転および専門性移転を目的に実施される。
  2. (1)項で述べられた技術移転および専門性移転は外国人労働者付添労働者に対する仕事の教育ならびに/または訓練を通じて実施されることで外国人労働者が仕事を実施する上で活用された技術を導入するための能力を身に付ける。
- 自分の持っている知識や能力の全てをインドネシア人の部下あるいは部下達に伝えて、自分が帰国した後も、仮に後任者が居なくても彼らの力で工場を運営して行けるよう、普段から創意工夫を凝らす必要があります。
- 日本人のそのような姿勢と気持ちは必ずインドネシア人社員にも伝わり、相乗効果となり人材育成の成果となり残るはずです。



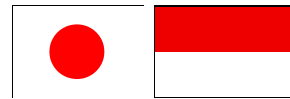
## 5. 営業マンとしての経験



- インドネシア工場に駐在する人の多くは製造または技術部門の出身で、日本国内で営業の第一線を経験したことがある人はほとんどいません。
- しかしインドネシアにおいては、特に日本企業を顧客とする場合は、インドネシア人営業マンの技術知識の未熟さと言葉の面で、どうしても日本人が対応せざるを得ない場合が多くあります。
- 自分の作った製品に何を要求されるのか、どのように使われているのか、そそんな生の情報が得られるだけでなく、お客様からの信頼を得ることにもつながります。
- 経験値として、日本人が工場に籠っている場合と、積極的に営業活動をする場合とでは、その後の業績に大きな差が出ていることが判ります。
- どうせ仕事をするのなら、業績を伸ばす方を選びたいものです。



## 6. 制約下での製品開発

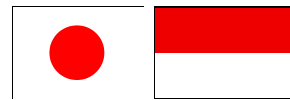


- 日本国内で製品開発する場合と、インドネシア国内で製品開発する場合とは、その難易度に雲泥の差があります。
- 物づくり世界一の日本の底力を思い知らされる良い機会となります。
- しかし、そのような逆境の中でも、創意工夫と勇気あるいは度胸を持って製品開発をやり遂げて、大きな成果を上げて来た事例はいくつもあります。
- インドネシア人社員も巻き込むことで、日本人には発想出来ない解決策を教えられることもあります。
- インドネシアならではの条件で開発された製品が、アセアン、中東、そして日本で活用される様子を見るのはまた格別です。





# 7. 華僑、印僑との取引



- 華僑、印僑とは本来は中国あるいはインドの国籍を持って外国で暮らしている人達を言い、インドネシア国籍を持つ場合は華人系インドネシア人あるいはインド系インドネシア人と呼ぶべきですが、華僑、印僑と呼ばれるのが普通です。
- 彼らは数世代にわたりインドネシアに住んでいる訳ですが、自分たちの民族性も強く残し、それを事業の強み・機会としている場合がほとんどです。
- どちらも商取引においては長い歴史に基づいた習慣や儀礼を重視し、物づくりにおいても日本人とは大きく異なる管理手法を取るのが普通です。
- そんな彼らとビジネスを通じてお付き合いの機会を得ることは、日本ではまず考えられないことで、学ぶべきことがたくさんあるはずです。



BRAMA



INDRA

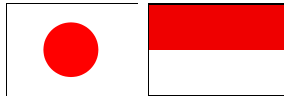


SHIVA

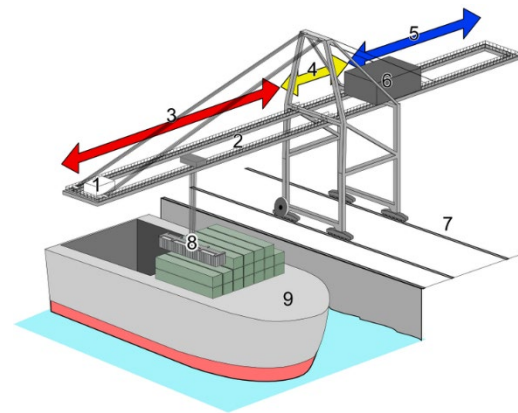
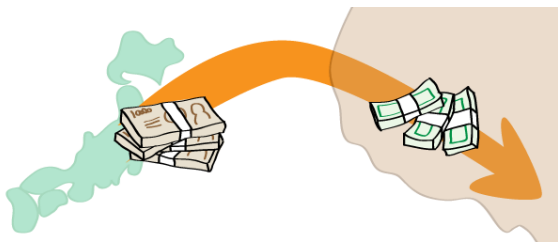
© CanStockPhoto.com



## 8. 海外貿易実務の経験

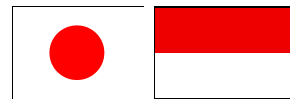


- 日本国内での取引と海外との取引を同じように考えている経営者が多いことに驚かされます。
- 二国間や多国間での貿易協定や経済協定が普及して来たことで便利になっていることは確かですが、それでも国境を越えた商取引、すなわち貿易には多くの約束事や規制があります。
- 参考書を読んだりセミナーに参加したりしても中々実感として解りづらいことも多いのですが、実際に輸入業務あるいは輸出業務を体験してみるとその仕組みが良く解ります。





## 9. 外国為替変動の実感

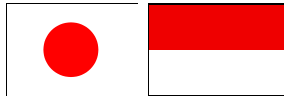


- 日本国内での仕事に従事している場合でも、外国為替の変動で輸入資材のコストや輸出商品の売り上げに影響を受けていることが分かります。
- インドネシア工場が日本などから材料を輸入している場合や製品を再輸出している場合、多くは米ドルで決済していますので、インドネシアルピアと米ドルの為替相場、そして日本円と米ドルの為替相場の変動はすぐに、そしてまともにインドネシア工場の業績に影響を及ぼします。
- 毎朝のように為替相場を確認して、必要とあらば銀行に為替予約を申し込むなど、リスク覚悟のギャンブルを迫られることもあります。
- 嫌でも世界経済や国際政治に敏感になり、多くの事を学ぶはず

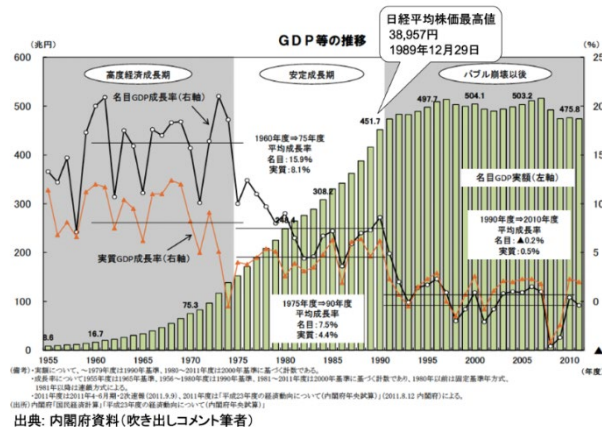


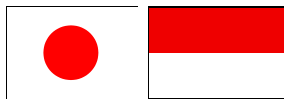


# 10. 日本的経営の長短の発見



- 戦後の昭和時代の日本は奇跡と言われる復興と経済成長を達成しました。
- それを実現した代表的なものは、経済界の成長を政府が支えた『護送船団方式』、新卒採用から定年までの雇用を保証して人材や技術の社内蓄積を支えた『終身雇用制度』、サラリーマン人生の将来を保証した『年功序列』、人物金の経営リソースを安定させた『系列』、業界全体の安定した成長を支えた『談合』等々、平成時代以降では否定されているものもあります。
- マレーシア政府のように“Look East”を掛け声として、これら日本の制度や仕組みを学ぼうとするとところもあります。
- もしインドネシアにおいてこれらの制度や仕組みが取り入れられたらどうなのか、考えてみることで日本的経営の良いところ、悪いところが見えて来るかもしれません。



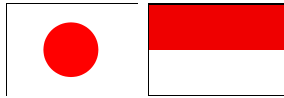


1. 女中さんとのお付き合い
2. 運転手とのお付き合い
3. 個別キャディー付きゴルフ
4. 南太平洋での魚釣り
5. 歴史巡りのような国内旅行
6. 多彩な周辺国への海外旅行
7. 南国の山海の珍味との出会い
8. イスラム教との出会い
9. 植民地支配の歴史との出会い
10. 外から見える日本と言う国

## 生活編



# 1. 女中さんとお付き合い

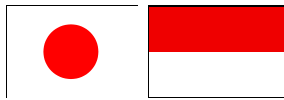


- 日本では昔から一部の武家、商家、そして近代では金持の家に例外的に女中さんが働いていましたが、ほとんどの日本人にとって、女中さんが家の中に居て、しかも同居するなどということは全く別世界のことです。
- しかしインドネシアでは、単身赴任者の増加と、一軒家からマンションへの住環境の変化に伴い、女中さんを雇う日本人家庭は幾分少なくなったようですが、女中さんを雇用する文化は根強く残っています。
- インドネシア人の家庭を見ると、金持ちに限らず、共働きの中産階級も結構女中さんを雇用しています。
- 田舎から知人を頼って都市に出て来たばかりの、日本語も日本食も何も出来ない中学を出たばかりの若い女性から、日本語が堪能で日本食もプロ並みのベテラン女性まで様々です。
- 郷に入りては郷に従えで、日本では滅多に出来ない経験を積むのも人生の楽しみの一つかと思えます。





## 2. 運転手とのお付き合い

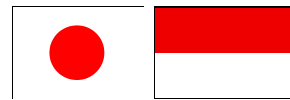


- 日本人駐在員の多くは運転手付きの社用車で通勤や外出をするのが普通です。
- 正規採用の社員としての運転手よりも、派遣会社が手配してくれる運転手の方が多くなっているようですが、それでもある期間は自分専用のお抱え運転手として働いてもらうことになります。
- 毎日かなりの時間を一緒に過ごしているため、こちらのプライバシーもある程度把握されているため、個人生活で困った時は阿吽の呼吸で助けてもらうこともあります。
- そうかと言ってあまり親しくなっても、煩わしい問題に巻き込まれる可能性があるため、付かず離れずの信頼関係を維持出来れば頼りになる存在です。
- 前記の女中さんと同様、郷に入りては郷に従えで、日本では滅多に出来ない経験を積むのも人生の楽しみの一つかと思います。





### 3. 個別キャディー付きゴルフ

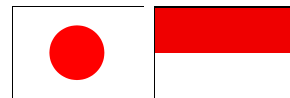


- 日本でゴルフをする場合は、1つのパーティーに一人のキャディーが付くか、あるいはキャディーなしのゴルフカートだけでラウンドすることが普通だと思います。
- しかしインドネシアの多くのゴルフ場では、全プレーヤーに一人ずつ若い女性のキャディーが付くのが普通です。
- キャディーとしての技量は千差万別と思われませんが、ある意味で楽しい時間を過ごせるでしょう。
- 最近はラウンドフィーもさほど安くないため頻繁にプレーをするのは難しいかもしれませんが、年間を通して軽装で、健康的な汗を掻けるインドネシアでのゴルフはお勧めです。





## 4. 南太平洋での魚釣り

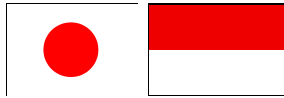


- インドネシアは約15,000の島々からなる国家で、その領海は遠浅で漁業に適しているため、中国に次いで世界で2番目、日本の5倍の漁獲量を誇る国です。
- 日本人の中には共同で釣り船を所有し、週末にはジャワ島の北側のジャワ海や南側のインド洋に出て釣り三昧を楽しんでいるグループもあります。
- ジャカルタからスピードボートで1時間くらいの海域に点在するPulau Seribu (千の島)のコテージに家族で泊まって、珊瑚礁の海で釣りをするのも良いでしょう。
- 明るい太陽の下、椰子の葉陰に白い砂、そして夜は満天に輝く天の川。
- しばし天国の雰囲気味わってみませんか。





## 5. 歴史巡りのような国内旅行

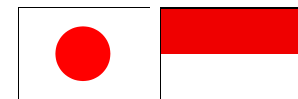


- 1世紀から15世紀までは多くのヒンズー王国が、そして16世紀以降は多くのイスラム王国が支配する地域でした。
- バリ島はイスラム勢力に追い出されたヒンズー文化が今でも毎日の生活の中で息づいている世界でも珍しい島です。
- 中部ジャワのボロブドゥール仏教遺跡は、同じくイスラム勢力に制覇された後は近くの火山からの灰に埋もれたまま、20世紀後半までその存在が知られていませんでした。
- ジャカルタの中心に鎮座する世界三大モスクの『Istiqlal』はインドネシアが最大のイスラム教徒を抱える国であることを強く印象付けています。
- その隣にそびえるカトリック教会Jakarta Cathedralの尖塔は、この国が宗教の自由を基本としていることを物語っています。
- このように、バリ島、ジョクジャカルタ、そしてジャカルタと、ヒンズー教、仏教、キリスト教、そしてキリスト教のメッカを辿ることでインドネシアの2000年の歴史を体感することが出来るのです。





# 6. 多彩な周辺国への海外旅行

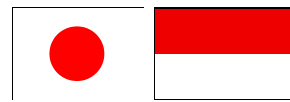


- インドネシアから数時間で行ける外国は、アセアン諸国の他にも多彩な文化を持つ国がたくさん存在します。
- 航空便も世界最大級のハブ空港であるシンガポールを経由すれば多くのフライトを選べます。

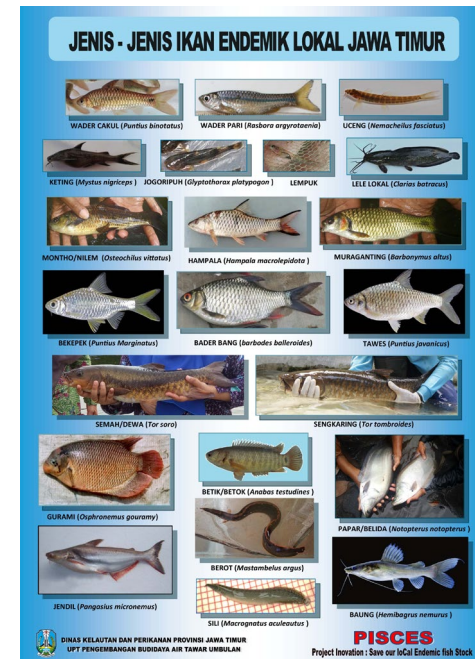




# 7. 南国の山海の珍味との出会い

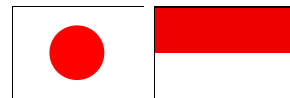


- インドネシアは鉱物資源、植物資源、海洋資源など多くの資源に恵まれた国です。
- 日本では中々お目にかかれない果物類や魚介類、それらを使った料理など数多くあります。
- 現地に長期間の生活を健康で過ごすためには現地の風土に合った食べ物を摂取することも必要です。





## 8. イスラム教との出会い

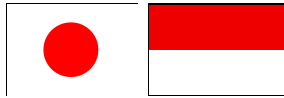


- 宗教の自由が保証されているインドネシアではイスラム教は国教ではありませんが、国民の約9割がイスラム教で世界最大のイスラム教徒を抱える国です。
- そのため周囲のインドネシア人も9割以上がイスラム教徒となり、否応なくイスラムの戒律に沿った生活環境の中に置かれることになります。
- 日本でも技能実習生の増加などで、イスラム教徒と出会う機会は増えて来ていますが、自分がその世界の中に入るのとでは大きな違いがあります。
- 世界人口に占めるイスラム教徒は25%で、キリスト教徒の31%に次いで2番目ですが、人口増加率は1番のため近いうちに世界最多となるでしょう。
- 身を持って彼らの世界を理解する格好の機会です。





# 9. 植民地支配の歴史との出会い

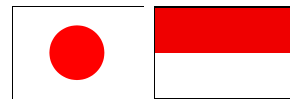


- 19世紀には日本を除く世界の有色人種国家の全てが、欧米白人国家により植民地にされました。
- 日本だけは幸いにしてその歴史がないため、また学校でも教えないため、植民地支配がどのようなものだったのか、ほとんどの日本人は実感として解らないと思われます。
- 日本も大東亜戦争の際にはアジア諸国を侵略したと言われていますが、欧米白人国家による植民地支配とは似て非なるものでした。
- 17世紀から20世紀半ばまでオランダの植民地支配を受けたインドネシアには、国の至る所に多くの傷跡が残っています。
- それらの遺跡を目にすることで、インドネシアの人達への理解も一層深まるものと思います。





# 10.外から見える日本と言う国

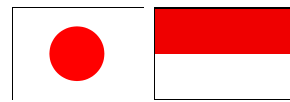


- 日本国内にだけ居ると、インターネットで情報が豊富に得られるとしても、日本の本当の姿は中々見えて来ません。
- しかし何年間かインドネシアなどの海外で暮らしていると、日本の良いところ、そして悪いところが次第に見えて来るはずです。
- 見えて来るだけでなく、世界における日本の立場や国力の変化が、仕事や私生活においても、あたかも自分が日本の代表であるが如きに影響を与えて来ます。
- その結果として自分は日本人であるとの自覚が強くなり、日本の国はこのようにあって欲しいとの思いも強くなって来るでしょう。
- これがインドネシア駐在の最大の成果なのかもしれません。





# 最新のインドネシア情報はこちらから



## インドネシア進出サポート公式サイト <https://www.hmkt.jp/>

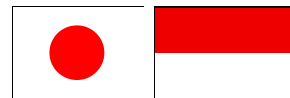
- インドネシア進出準備から撤退までの要点を簡潔にまとめたサイト(Googleトップランキング)

## インドネシア最新情報ブログ <http://blog.livedoor.jp/kojindonesia/>

- あらゆる分野での情報を毎日、どんなメディアよりも早く紹介

## 教えて、小野先生 <https://abji.hamazo.tv/e9372595.html>

- 毎月第三水曜日7:00-8:00に開催されるインドネシアについてのオンライン勉強会



ご清聴ありがとうございました  
ここからは質疑応答です